

会員の皆様へ

新型コロナウイルス感染症の拡大に対処する奈良県知事の会見は、会見後に奈良県ホームページに動画と会見資料が配信されます。けれども、字幕や文字によるサポートがありません。

奈良県中途失聴・難聴者協会のご尽力により、文字起こし文をつけることができました。内容を忠実に文字に変えてもらっていますが、マイクの調整具合などの関係で、聞き取りにくい部分があったり、話し手が、曖昧な単語を使ったり、指示語を多用したりすることで、聞こえる人でも、内容の理解がむずかしい部分もあります。

そのような部分は、文字起こし文も読みにくくなっていますが、現時点でのできる限りの対応でありますことをご了承ください。

司会／ただいまより、第25回奈良県新型コロナウイルス感染症対策本部会議を始めます。

奈良県においては、4月27日より奈良県緊急対処措置を実施しており、6月21日から第4期の奈良県緊急対処措置を実施している。

新規感染者は5月中旬以降減少傾向になったものの、6月中旬以降は下げ止まりの気配がある。

昨日、大阪府における、まん延防止等重点措置の8月22日までの延長が、国において決定された。

本日はこの大阪の延長を踏まえて、緊急対処措置、第5波への備えについて議論したい。

本部長よりご発言よろしく。

知事／25回目になりますが、奈良県の感染症対策本部会議を開催したい。

2ページ、3ページ

今回の開催の理由は、大阪などで、緊急事態宣言からまん延防止になって、それが継続されるというのが大きな理由です。

また、奈良県でも、大阪の影響だけでなく、独自の傾向が出ている。

それをどのように注視するか、これが新しいテーマです。

これまで続けてきた、奈良県の緊急対処措置ですが、大阪のまん延防止等重点措置の延長と合わせて、8月22日まで奈良県も継続したいというのが本日のメインテーマです。

医療提供、ワクチン接種なども資料に入れていたが、今回は感染拡大の兆しがあればどうするかというテーマも加えてある。

第4波の奈良県の兆候は、大阪が感染拡大すると同時に奈良も拡大していったということを踏まえて、大阪の動向を注視して、第5波への兆しを早期に察知することを目標にしている。

4ページ

最近の感染の傾向、第5波への備え。

県内感染拡大の防止をどうするか、医療提供水準をどうするか、ワクチン接種をどうするか、感染拡大の兆しの探知をどうするかなどを、今回の対処の中心にしていきたい。

6ページ

最近の感染の傾向。

下がる傾向にあったが、6月14日以降下げ止まりの気配がある。

また、奈良県は大阪の10分の1の傾向であったが、10分の2を上回るような独自の傾向が奈良県で出始めた。

7 ページ

独自の傾向というのは、10分の1の線よりも上回る感染拡大の動向があったこと。

今までの傾向からすれば、大阪が収まっているのに、奈良県が上回る動きがあるというのは珍しいことです。

6月14日から7月6日までの傾向を見ると、このように上回ることが続いた。

8 ページ

それに関連するが、1次感染者は大幅に減少している。

県内独自の感染拡大というのが、1つのポイントです。

直近では、1次感染者は1名。

大阪由来一辺倒ではない傾向が、奈良県で現れてきたのが、大きなポイントです。

9 ページ

県内感染の動きを追う必要がある。

大阪への通勤通学が多い北西部で感染拡大が続いていたが、それ以外の地域でも感染が見られるようになった。

他は下がっているのに、高田、橿原、桜井がそれほどでもないことが数値でわかる。

桜井は増加しており、高田、橿原は減少率が低い。

何があったのか、前回の感染で追及してみた。

10 ページ

ある期間のクラスター発生を追ってみた。

3月から6月までのクラスターは、29件ある。

その中の内訳が、真ん中にあるグラフ。

奈良県では最近、飲食店のクラスター、子ども園のクラスターが発生している。

奈良県の近時のクラスターに注目してみる。

11 ページ

基本的な感染原因の場所は家庭内感染です。

奈良県の感染の2分の1が家庭内感染ですので、その傾向は変わらない。

家庭内感染防止の徹底が引き続き必要と思う。

12 ページ

家庭外感染については2次以降の感染になる。

家庭外感染の類型別では、友人等の交流、仕事による感染が増えてきている。

家庭内感染は数が多いが、感染拡大のパターンは限られている。

クラスターも、福祉や病院などタイプはいくつもあるが、そんなにバラエティはない。

家庭外感染は、いろいろなケースがある。

友人等との交流、仕事が2大類型です。

13 ページ

直近の8日間の状況で、場所としては、事業所および飲食店が全体の8割を占めている。

先ほどの感染原因の裏返しになっている。

以上が感染の動向傾向です。

それを踏まえて、第5波への備えをこの対処措置の内容にしていきたいと思う。

14 ページ

2, 第5波への備え

15 ページ

飲食店での感染が増えたということで、滞在時間の対策、マスク着用、設備面での対策の徹底をお願いしたい。

16 ページ 17 ページ

また、感染防止対策に抵抗する意味で、飲食店、宿泊施設の認証制度を拡大している。

今後とも認証店を活用していただきたい。

認証店は増加していて120件あるが、飲食関係が67、宿泊関係が53ある。

18 ページ

学校・保育園などでもクラスターが発生している。

家庭内から学校・保育園へ子どもさんが通ってうつすケースになる。

持ち込まない対策(が必要)。

保育園サイドは、18ページにあるように、きめ細やかな対策をぜひお願いしたい。

19 ページ

福祉施設のクラスター、特に老人関係のクラスターが発生をしていたが、笠原先生に実地指導をしていただいて、感染拡大がその場所では二度と起こらない、起こさないようにしている。

新しいところでは起こる可能性があるので、施設での感染対策は徹底していただきたいと思う。

20 ページ

一番多い家庭内感染は、家庭内は人数が限られているので、うつさないことはできる。

うつさない家庭もあるし、用心をすれば、家庭の外へ持ち出さないこともできる。

基本の対策があるので、ぜひ油断なく守っていただくようお願いしたい。

21 ページ

基本的な対策は、決まっているので、また改めてお願いしたい。

ワクチンが全面的には行き渡ってないので、このように状況に応じた対処しかできないのが現状です。

基本的な感染対策はどこも変わらないが、繰り返しお願いしたい。

一番効くのはマスクです。

また部屋の換気、手指や物の消毒などが基本です。

22 ページ

このような注意の他に、集合的な行動についてもお願いをしているので、その取り組みの継続をしたい。緊急対処措置として、従来から自粛をお願いしていた措置は、継続したいと思う。

施設の使用制限、公立施設の使用制限は、県と市町村で協議をする。

イベントの実施は協議をしながら、自粛を基本に対応していきたい。

23 ページ

飲食店、宿泊施設の認証制度は、引き続き拡大をしていきたい。

商業施設、飲食店、集客施設では、ガイドラインを示しているの、その徹底を引き続きお願いしたい。

夏に向かっていて夏休みに入るが、あまり集まらない勤務体制をお願いしたい。

繰り返しになるが、いろんなタイプのクラスターが社会施設、医療、学校で発生している。

奈良県では珍しく、飲食店クラスター、スナッククラスターが最近発生している。

クラスター対策もお願いしたい。

24 ページ

学校では部活動、教育実習の自粛をお願いしていた。

自粛の姿勢は崩さないで継続していただきたい。

気をゆるさないでと、お願いを続けていきたい。

コロナが収まってほしいというのと、収まればいろいろなプロモーションをするというタイプがある。

経済のプロモーションは、「Go To Eat」と「いまなら。キャンペーン」。

2つの観光の大きなプロモーションがある。

両方とも、緊急対処措置期間中は停止し、終了後の情勢をよく見ながら、いずれしたいと思っている。

対処措置の期間中は停止・自粛をしたいと思っている。

25 ページ

ここからは、現在の水準の医療提供体制。

感染者が低水準なので余裕がある。

その余裕を引き続き確保していく姿勢で継続したい。

26 ページ

重症対応病床の状況。

これまで奈良県では、全ての重症患者を重症対応病床で治療できた。

今後とも続けることを目標にしたい。

27 ページ

現在の（重症対応病床の）確保状況です。

28 ページ

（重症対応病床の）占有状況です。

一時、80%を超え90%まで占有が高まったが、現在の占有率は20%程度に収まっている。

29 ページ

2つ目は重症化予防。

隔離治療が基本です。

5波に（対しては）、4波のとき拡大に病床提供が追いつかない時期があったので、今後とも油断なくしたいと思う。

病床にたどり着けない間も、重症化予防の措置を継続したい。
たどり着けない場合とは、「宿泊療養施設にとどまる」とか「自宅にとどまる」ばあい。
それと、発見が遅れて重症化につながったケースはこれまでなかったが「早期発見」。
この3つが大きなことで、重症化予防の施設を継続したい。
酸素投与も引き続き措置をとっていきたい。

30 ページ

入院病床について。
現在、448床まで増床できた。

31 ページ

これまで入院加療の必要な人には、全て入院してもらっている。
引き続き、対応病床の拡充に努めていきたい。
第5波への備えの最重要分野だと思っている。

32 ページ

病床提供の状況。

33 ページ

入院病床の占有率の状況。
現在は20%程度、余裕を持った運用をしていけたらと思っている。

34 ページ

宿泊療養施設です。
軽症の人への宿泊療養施設は、自宅療養者を避けるということだった。
自宅療養者は現在0人。
引き続き0人を堅持していきたい。

35 ページ

宿泊療養施設の内容。

36 ページ

宿泊療養施設の占有率は、現在4%です。

37 ページ

入院待機者、自宅療養者に対しても健康管理を充実していきたいと思う。

38 ページ

新型コロナ対策医療が緊迫した状況で続くと、通常医療を圧迫している。
その中で随分頑張ってきてもらってきたが、両立の工夫は必要です。
余裕がある時期は、通常医療にしわ寄せが生じない弾力的運用をしていきたい。

39 ページ

71 床を柔軟に運用し、一時通常医療に戻して、再拡大した場合は速やかにコロナ対応にする運用です。前回から始めており、これを引き続き継続していきたい。

40 ページ

重症度の状況です。

感染者 126 名の重症度は、7 月 8 日時点で 40 ページのような状況です。

41 ページ

重症度率は、この期間 6%です。

42 ページ

入院・入所の状況です。

一時に比べて大変少なくなっている。

43 ページ

自宅療養者数は、5 名。

44 ページ

この 5 名は全員、入院・入所拒否の人なので、自宅療養者は実質 0 人です。

45 ページ

奈良県では、必要な人に入院加療をすることができている。

入院希望の自宅療養者 0 人を今後とも堅持していきたい。

46 ページ

これ以降は「ワクチン接種の早期展開」です。

47 ページ

高齢者の接種が優先しておこなわれており、全国の接種順位が従来より分かりやすく出てきている。

7 月 7 日現在の 1 回目の接種率がでていて、奈良県は 76.5%で全国 10 位。

近畿では和歌山県が更に上回る接種率であり、滋賀県が奈良県に続いていて、兵庫・京都・大阪がだいぶ右の方に寄っている。

接種の状況は県により差があるが、奈良県では接種者・市町村の奮闘により全国 10 位になっている。

48 ページ

(高齢者の) 接種の 1 次、2 次の直近の数字で、第 2 回目 (2 次) の接種も 40.2%です。

49 ページ

市町村別の数字を掲載している。

傾向は従来と変わっていない。

50 ページ

市町村別に分けた傾向。

51 ページ

(市町村に分けたうち)市の状況です。

奈良市の数字が大変低いことを心配している。

7月中に高齢者の接種を終えるのが、市町村の義務になってきている。

7月10日までに第1回目の接種が100%終わらなければ、7月中の2回目接種は難しいと言われている。

奈良県(奈良市?)では登録漏れがあると言っているが、この数字を見ていると7月10日までに1回目接種が100%いくのか、7月中に終われると言っていたのは、根拠がなかったのではないかなどと、余計な心配をしはじめている。

是非頑張っ、高齢者のワクチン接種の7月中の完了を、約束どおり果たしていただきたいと改めて思う。

52 ページ

町の接種の状況です。

53 ページ

村の接種は随分進んでいる。

54 ページ

高齢者の2回目接種が完了したのは、7団体ある。

55 ページ

現在高齢者の接種を中心に進んでいる。

奈良県ではワクチン接種が進んだ場合、接種した人口の感染率が下がっていく傾向があると思われる。それをずっと追っている。

相関係数は前回0.3と弱い相関であり、現在も弱い相関だと思うが、相関率は上がってきている。

この割合がでてくると、ワクチン接種が進むと感染率が低くなる傾向が明確になってくるとと思われる。

56 ページ

奈良県がおこなっていた、研修医派遣の活躍・貢献状況です。

現在、92,000回の接種をおこなってもらった。

各市町村では医師会が主役になるのだが、医師会があまり出てきておられないところでは、研修医が随分活躍していただいた。

大きな力になっていただいたと、市町村関係者から聞いている。

感謝をこの場でも申しあげたい。

57 ページ

研修医の接種の貢献度を出している。

全体では4分の1ほど、92,000回は高齢者の人口の4分の1ほどの接種実績になる。

市町村においては、御所市52%、あるいは、三郷町63%など、研修医の貢献率の高い所もある。

58 ページ

市町村別の 64 歳以下への接種券の発送状況。

発送の状況を調べ始めている。

多くの市町村は、9 割以上の発送済を確保してくれている。

市町村により、やり方が違う関係で接種券発送率が低い所もある。

59 ページ

県の広域ワクチン接種を申し込んでいた。

奈良会場について、2 つ申し込んだうち、1 つについてワクチン供給が認められた。

これは新しいニュースです。

8 月上旬から予約を開始して、8 月中旬から接種を開始したい。

福祉施設・医療機関等のクラスター対策のために、家族を含む関係者の早期接種を対象としたい。

一般の人たちの 11 月末までの接種完了を目指しているので、メインの人の予約状況を踏まえて、一般の人への接種も拡大したいと思う。

奈良会場分として伝達されたワクチン供給量は、1 万 4000 回分です。

橿原周辺の会場分はまだ決定が届いていない。

60 ページ

河野担当大臣からこのような発言がありました。

奈良県では 11 月末までの接種完了を、目指していきたいと思っています。

職域接種は並行して行っていましたが、新しい予約あるいは接種は少しストップがかかっています。

奈良県では承認済みが 7 団体、申請中が 8 団体です。

申請の中には警察官、県立学校教職員などを対象とした県庁職域接種も申請に入っていますが、ワクチン供給の話はまだ届いていません。

62 ページ

感染症拡大の兆候の探知の努力をしたいと思っています、その内容です。

63 ページ

1 波から 4 波まで見てみると、大阪の感染拡大があると、奈良が即座に引きずられて拡大するというのがよくわかります。

大阪の拡大に引きずられるということ、はっきりと認知、認識をしたのは、最初からではありませんでした。

大阪に引きずられると言った時は、大阪のことなど言うなという首長さんもおられた。

このような経験を重ねていますが、大阪が拡大の兆しがあると、素早く対応するというパターンが必要かと改めて思います。

第 5 波にはそのような備えをしたいと思いますが、どのようにするかということ、心掛けていきたいと思っています。

64 ページ

第 5 波の兆しの判断は、まず、やはり大阪府における感染状況を常に注視をする必要があると思います。

また、県内で独自の拡大があるときにはその兆しを探知する、二つが大事かと思っています。

大阪の感染拡大が決定的に奈良県に影響を与えるパターンは、変わっていないと思います。

第5波でも同じことだと思います。

今回の緊急対処措置の延長も大阪が用心されている限り、奈良も用心しようということの連動した姿勢です。

早期の感染拡大の防止については、拡大傾向ありということ認識する。

認識した場合は、それを県内へ向けてメッセージを発信することは、基本的なことになると思います。

第5波への兆しは、このような兆しを捉えられたら、すぐにその認識をして発表することを、まず心がけていきたいと思っています。

65 ページ

デルタ株への対応です。

66 ページ

日本の大都市でも特に東京など、デルタ株の状況が増えていると聞いていますが、奈良県ではその検査を拡大していますが、まだそのような兆しは見えません。

しかし、いろんなきっかけにデルタ株が全国に展開する可能性がありますので、東京方面からのデルタ株の感染伝播が起これないように注意をしていきたいと思っています。

現在は起こっていませんが、引き続きの注意が必要な対象だと思っています。

67 ページ

最後のページ。

差別偏見をなくすお願いを重ねて申し上げたいと思います。

今回の対処措置の延長にぜひご理解を賜って、このよう内容で8月22日までの期間、対処措置を実行させていただきたいと思っています。

以上です。

議長／ありがとうございました。

それでは、このほかにこの場で情報共有すべき事項、確認事項、あるいはご提案等ありましたら発言をお願いします。

よろしいですか。

それでは本日の会議の議事内容を確認して諮りたいと思います。

知事からご説明がありましたように、奈良県では緊急対処措置を8月22日まで継続することといたしたいと思っています。

引き続き警戒を怠ることなく、危機感を持って対処を継続していくこと。

感染の再拡大にも対応できるように現在の水準の医療提供体制を堅持し、ワクチン接種を着実に進めるとともに、感染拡大の兆候を早期に探知して感染動向の変化にも注意していくということ为本日の確認事項として、着実に実行していきたいと思っています。

よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

司会／それでは以上をもちまして第25回奈良県新型コロナウイルス感染症対策本部会議を終了します。

引き続き、報道機関の皆様との質疑応答の時間とさせていただきますので、本部員の皆様はご退席願います。

ありがとうございました。

司会／報道機関の皆様よろしいでしょうか。

それでは、質疑に移らせていただきます。

この本部会議の後、14時30分から議会への説明がありますので、質疑につきましては14時20分を目途でご協力よろしくお願いたします。

それではご質問のあるかたは、挙手にてご質問をお願いいたします。

NHK／オイカワと申します。

今日の会議で確認された内容を見ますと、かなり将来的な兆候に対しての備えというところに力点を置かれていたかと思えます。

これは第4波までの経験を踏まえて、どのような思い、考えから、こうした第5波への備えというところに力点を置いた対応を取ろうと判断されたのでしょうか。

知事／63 ページですが、奈良県の感染の1波から4波までの感染動向を見ますと、大阪が伸びると即座に奈良が伸びていることはわかっています。

第5波も同様のことが考えられます。

大阪の感染拡大の動向を、早期察知することが一番大事かと思えます。

今は大阪は下げ止まりと言われているので、奈良も下げ止まりということですか。

下がった時と上る時とは、大阪の影響を受ける打撃の様子が違うんじゃないかと思っています。

上りのときの引きずられ方は、明らかに大阪によって1次感染から2次感染に行くというロジックがあるとと思っています。

下げ止まりの状況ですが、第5波は、これを下げたら安心ということではない。

第4波ときは2月28日に下がったかと思ったら、3月1日からまた上がり始めたこともあります。

日本各地のいろんな状況によると思えます。

大阪の影響が非常に強いのは、大阪通勤が3割で、県外通勤が日本一高い奈良県独特の状況だと判断します。

奈良の感染動向は、このような外形的なことしか今まで判断できませんでした。

パターンは63ページのようにわかってきていますので、これを原型として、第5波の兆しがあれば即座に認識するのは何より大事だと思います。

そのための継続注意、緊急対処措置の内容は、今度は押し寄せたのに対応しよう、大阪がまだ高度の感染状況にある場合、注意しようという(ものになっている)。

第5期の緊急対処措置は、低位だが下げ止まっている傾向だという認識と、上げ始めのときは注意しましょう(というもの)。

4波は下がったと思ったらすぐ上がったので、そういうパターンの認識をして、第5期の緊急対処措置の中心の一つにしているのは、おっしゃるとおりです。

記者／現状の認識としては、第5波の兆しは県内の状況を見てどのようにお考えですか。

知事／今の状況？

今はまだ第5波とは言えないと思います。

まだ下げ止まりです。

リバウンドの兆しは見えません。

しかし、場合によっては、明日から見えるかもしれないと思っています。

下がりきって上がるという第4波のような、あるいは第2波から第3波に行くときは、下がった時期は結構長くて、このままいくのかとむしろ期待をしたけども、急に上がり出した(ような)。

第3波、第4波は、下がったと思ったらすぐに上がり出した。

第5波は、下がったと思ったらすぐ上がるかもしれないと、心の用心はしなきゃいけないと思います。

そのようなことでしか、コロナ実物を探知することができません。

感染者の各地の動向しか探知できません。

奈良県は特に大阪の動向は、第一に注視しなきゃいけない。

この傾向を見ると、改めてはっきりわかると思います。

注視することを、強固な姿勢で対処したいと思います。

記者／ありがとうございます。

それから、ワクチンについてお尋ねしたい。

県の広域の会場も供給の見通しが立ったということで、奈良市内の会場は日程が出ました。

橿原周辺の会場も、引き続き設置する方向で調整を進めるということでしょうか。

知事／その通りです。

陳情に行ってきました。

ワクチン接種は菅総理、あ、二階幹事長か、ま、政局でもワクチンだとおっしゃっています。

東京の霞が関の関係のかた、この前人事異動があつて、とにかくワクチンシフトになってきていると思います。

特にオリンピックがありますので、オリンピックの期間の感染防止に、緊張感が漂っていました。

スポーツ庁にも陳情に行ってきました。

いろんな部局でよく会っていただいたと思いますが、ワクチン接種に向けての緊迫感が漂っていました。

高齢者についての統計を出し始めていますが、ワクチン接種が進むと、感染率が下がると通常言われています。

実際の統計を追いたいというので、高齢者について追い始めた。

相関率が0.4で大変弱い相関ですけれども、ワクチン接種が進むと、100パーセント当然安心できないが、リスクは下がっていく傾向はあります。

全体の経済活動をリバウンドさせ、コロナ感染者をリバウンドさせない方向でやるには、ワクチン接種は決め手になってくると思います。

地域の感染者リバウンド抑止、経済リバウンド推奨というパターンは各地とも同じすけれども、ワクチン接種というのは大きな要素で、接種率の拡大・向上は大きな要素になる。

奈良県でも、公正なパターンでやろうということで、高齢者接種から始めた。

職域接種、市町村の64歳未満の接種へと、バラエティが出てきている。

それを統計上、フォローする必要がある。

それと、11月中にほとんどの国民が接種完了をしようということで、ワクチン接種の対象を、順次精力的に拡大する。

日本は、出だしは遅れるが、勢いがつくと、みんな「右へならえ」する国民性があるので、このような追いかけパターンは強いと思う。

奈良県の接種も追いかけパターンの地域の一つと思う。

接種の順位は、あまり気にする必要はないと思っていたが、20位以下の接種率ランクだったのが、毎日接種して、どんどん順位が上がってきて、今10位までになった。

上位であれば安心ということでもないが、上位の方がやっぱり感染者が低い。

逆に感染者の低いところの方が、ワクチン接種能力、お医者さんの能力があったのではないかと、この数字から見える。

47ページ目の数字ですが、ワクチン接種率が低いのは、北海道・青森・大阪・静岡。

東京都もそんな高くない。

東京・千葉の関東でも、感染者が多いところは、忙しくて(接種率が低い)ということかと思う。

関西は、軒並み低い状況だが、和歌山・滋賀が比較的高い。

その中で奈良県は、健闘していると私は思います。

和歌山が最初、接種率が高かったのは、特に和歌山市の開業医が接種したから。

大きな町で開業医が頑張るといいが、奈良県の場合は奈良市が頑張ってくれないから、まだ10位かと思う。

奈良市が頑張れば、もっと上にいくと思ったりする。

順位は目標でないが、7月中に高齢者完了するとおっしゃってるのは本当かなと、多少の疑いを持っている。

余計なことを言ったかな。

記者／ありがとうございました。

司会／よろしいでしょうか。

それでは、その他にご質問いかがでしょうか。

奈良テレビ／ニシムラです。

先ほどおっしゃった広域ワクチンの接種会場ですが、奈良市内2ヶ所、バスターミナルと文化会館で、8月以降に接種が開始されるということです。

今県内でもワクチン接種を行っていますが、8月から始まる広域ワクチン接種会場に対する知事の期待や、目指すものがあれば教えてください。

知事／そうですね。

先ほど奈良市のことを言ってしまって。

他意はありません。

奈良市は人口が多いので。

研修医も奈良市が最初で、開業医の出だしが遅いときに、奈良市に派遣して、活躍してくれました。

今度、広域接種の奈良市会場は、接種率が低いからというよりも、人口の多いところでやるのが大事と思う。

奈良県会場分で1万4000です。

これは県域全体(の分)ですので、奈良市に限ったものではない。

奈良市の接種が、全体で10万ぐらいですので、奈良市に限らないが大きな量になると思う。

また、高齢者の接種に限られていたときは、それ以外の方は広域接種への期待が多かった。

今度、64歳未満の接種が始まると、どちらでも受けられることになる。

奈良市の接種の体制を阻害しないよう、十分配慮する。

市長さんをご心配することはないと思います。

奈良市の場合、(県広域接種)のせいで、遅くなっているという言い訳はできないと思う。

言い訳をしないでどんどん打っていただきたい。

併せてこのような接種もやることで、奈良市の接種率が上がれば、奈良県の接種率も上がる。
和歌山県和歌山市を見習っていきたいと思っています。

記者／ありがとうございます。

広域ワクチン接種会場で優先となる対象が、福祉施設、医療関係者、あとは教員が優先になっていると思う。
理由はこういったことでしょうか。

知事／優先は、接触される福祉・医療・教員などと思います。

あと経済団体の要望もあります。

それを最初から入れると、経済団体がいくつも出てくる。

市で観光地だから観光業者にという考え方もあると思うが、県の広域接種となると、業種限定は難しいと思う。

予約の余裕が出てくれば、一般の方へ拡大する。

業種を制約するかどうかは、まだ少し時間があるので考える。

優先接種予約の空きができれば、一般開放した方がいいというのが、今の考え方です。

業種に限ると、外された方はどうしてかと思われる。

とにかく業種に限りなく、どんどん打ちましようという段階に入ってきていると思います。

全県民の3割、4割が打つと、業種を限って打つよりも、一般開放して打つ。

ファーストカム ファーストサーブド(first come first served)という考え方に立たなければいけないと言っている。

ファーストカム ファーストサーブドというのは、最初に来た人から打っていくということ。

接客業など、関心の高い人はファーストカムになる。

予約が殺到してできないという状況から、市町村の64歳未満の接種、広域会場の接種、職域の接種など、大きく分けて流れができてきている。

その中で選んで打っていただけたらいい。

早く打たないと心配だという状況から、できるだけ早く打ちましようという段階に、全体として入ってきていると思う。

県の広域接種は1万4000と大きな意味がある。

橿原会場でもワクチンが届けば、接種者を確保して、県の広域接種を開始したい。

今の時期は、とにかく打てる人には、打ってもらう体制が望ましいと思う。

この人に打ってもらうと、限定しなくてもいいと思う。

県がやるので、福祉・医療・教員などに。

大事な職業ですし、今までに医療関係も福祉も済んできていると思う。

福祉は、特に高齢者を相手にする。

高齢者の方がワクチン接種すると、デイサービスに通っておられる高齢者も、抵抗力が多少上がってくると思う。

その状況を踏まえると、あまりきつい限定をしなくてもいいのではないかと考えている。

記者／ありがとうございます。

あと1点。この接種会場でのワクチンの打ち手は、どなたになるのでしょうか。

職員／現在、関係機関と調整をしています。

一般開業医は、市町村が使っておられますので、そういう方をお願いをする形ではありません。

記者／ありがとうございました。

司会／他にご質問いかがでしょうか。

毎日新聞／クボです。

県の緊急対処措置ですが、一番最初、4月27日に出て、今回22日まで延長ということで実質4ヶ月近くずっと出続けている状態。

隣の大阪で、緊急事態宣言、あるいはまん延防止が出続けている限りは、奈良県も措置を続けていくスタンスでしょうか。

知事／そうですね。

形式的に判断はできないと思う。

まず、緊急事態宣言をそのまま適用するか、それと関連のあるまん延防止措置を適用するのかという議論がありましたね。

それは奈良県の実情に適合しない、奈良県独自でやろうと途中で判断した。

国の緊急事態宣言とまん延防止は大都市型で、しかも、対象は飲食店対象限定型だと思う。

飲食店対象限定型だが、奈良には飲食店の場所はないのです。

西村(大臣)さんには、何度か電話が掛かってきたとき、そのことを報告しました。

奈良は、ないんだなあとおっしゃっていました。

だから国の緊急事態とまん延は(適していない)。

奈良は郊外型でベッドタウン。

ベッドタウンでも盛り場のあるベッドタウンと、盛り場のないベッドタウンは、いろいろ違いがあります。

埼玉とまたちょっと違います。

国の専門家の人はそういうことを分析していません。

頼りになる国の組織はありませんでした。

だから、やむなく独自の判断をしたというのが実情です。

それでもその判断よかったのかどうか、いろいろ議論があって(記事を)お書きになりましたが、結果は似たようなことになったというのが一つ目のポイントです。

大阪が続ける限りはどうかの。

もう一つは大阪との関係。

1次感染・2次感染という概念を、奈良県では独自で使い始めていた。

埼玉の1次感染・2次感染の概念を使っていいような地域でも、専門家の方は使っておられない。

真似ていただいてもいいと思うが。

大阪での1次感染が圧倒的でしたから、大阪由来ということになりました。

最近、1次感染がなくなってきたのは、新しい発見です。

8ページ目のように、6月14日以降、1次感染者は大幅に減少し、直近の8日間は1名に留まっています。

従来からは、考えられないような1次感染の減少です。

クボさんのご質問ですが、これで大阪との縁が切れたのかと見られたかもしれませんが、1名になったから切れたという訳にはいかない。

大阪が伸びた時の兆しは、大阪の兆しから発見したいと言ったが、1名になったから、今度は大阪由来

一辺倒ではない傾向が、今見られている。

ずっとそうかという、まだそうでもないということ。

感染がまだ下げ止まりで、大阪で用心している。

大阪が増えると奈良も増えると思っている。

8 ページ目とちょっと違うことを考えている。

自動的ではないということは、1 名になったことも踏まえて、これが 0 になって続く場合で、縁が切れたと理論的ではありうるかもしれないが、現実的にはあり得ないのではないか。

そのような分析も踏まえて、自動的ではないが、結果的には大阪由来の縁は切れないと判断した。

そのことをくどく説明した。

自動的かというと、そういうことも勘案しないで、「右へならえ」してるのかととられると嫌です。

大阪由来ということ、しっかりとデータの的に捕まえて、由来は減ってきているが、やはり基本的に大阪の 1 次感染から、リバウンドする傾向があると認識しているということです。

そのような分析を踏まえて、大阪が感染拡大防止をしている期間は、奈良も用心をして、同期間(対処)しようという理屈を立てている。

くどくなりましたが。

記者／仮定の話になりますが、大阪市がまん延防止を解除していたら、奈良県もこの(対処)措置は解除していたか。

知事／だから自動的でない三つ目のこと。

大阪が減りました。

奈良も自動的にはそのまま減る。

1 次感染は減るが、最近では 10 分の 1 理論が崩れそうになって、10 分の 2 理論になってきた。

ということは、県内独自感染が拡大することもありうるのところまで今回いつている。

大阪がもう、まん延防止を止めると言ったときでも、奈良が増えると奈良の緊急対処措置は続けるという意思表示です。

三つ目は自動的でない三つ目。

これは理論的です。

実態が、大阪がなくなり、奈良の 2 次感染がなくなる状況であれば、自動的ではないが、奈良の緊急対処措置はやめる。

三つ目の要素だけ自動的ではない。

自動的ではないと強調したかった。

というのは、独自 2 次感染がありうることを踏まえている。

最近では独自 2 次感染が発生している。

(大阪がやめたら)自動的にやめるのか、そうではないという答えを引き出しているのかと思った。

記者／ありがとうございます。

もう一点、ワクチンの、橿原の会場はもう決まってるんでしょうか。

職員／まだ調整中。

国の決定が出た段階で、どれぐらいの量が来てというのが固まってから。

今回は国の決定が来てから決めようと思っている。

司会／その他にご質問いかがでしょうか。

産経新聞／クワジマです。

今のワクチンの質問に関連して。

当初予定されていた7月下旬から8月中旬に遅れたのと、かつ使用ワクチンもファイザー製になったのは、やはり国からの供給のタイミングが想定よりも遅くなったということでしょうか。

職員／クワジマ記者がおっしゃる通り。

国の決定が、市町村の場合は来るのは確実だが、県の大規模接種が認められるか認められないかの問題がある。

着手できなかった部分が、今回1万4000回分のワクチン供給が決まった。

そこから予約システムの開発、委託業者選定等があるので、時期がちょっと後ろ倒しになったということです。

記者／ということは樫原は、さらに後ろ倒しになるということ？

職員／樫原の場合、予約システムが奈良市でできていれば、そこへ乗るだけ。

決定がいつになるか分からないが、そんなに違わないタイミングでいけるのではないかと期待している。

記者／わかりました。

前回、市町村へのワクチン配分について、残余量により配分を検討するというお話だったが、今回何か具体的に決まったことはありますか。

職員／前回発表させていただいた方法で、現在進めています。

新たに何か付け加えることはありません。

記者／ありがとう。

司会／その他ご質問いかがでしょうか。

奈良新聞／タニムラです。

広域ワクチンの樫原会場ですが、会場自体がまだ決まってないんですか。

職員／そうです。

要はどれだけの量がいつから来てということによって、使える会場が変わってくるので、まだ正式に決めていません。

いくつか候補を考えていますが。

記者／それと樫原会場の供給量は、何回分でしょうか。

職員／繰り返しになるが、榎原については国から何もまだ認められてない。
量はわからない状況です。

知事／まだこれから。

申請はしているが、(連絡が)来ていないのに、会場はどこか、ワクチンはいくらかと、こういうことが報道されると、報道は勝手だが、期待が上がる。

ワクチンが来ないと国のせいだと、そのような動きが全国で行われている。

このような状況から考えると、県の広域接種なので、お伝えしたい順番は(次の通り)。

ワクチンの配分がきました。

幾ら打つことができるようになりました。

いつ頃から打つことになりました。

会場はこのようになります。

対象はこのようになります。

と、順を追ってお伝えしたいと思っている。

会場は決まったのか、ワクチン(の量)は、いくらかとおっしゃるのは勝手ですが、私はそれに追随して、報告したくない気持ちです。

順番に報告するので、来ることを期待してお待ちくださいと申し添えさせていただきたい。

司会／よろしいでしょうか。

記者／以前は、この二つの会場でやると言ってたんで・・・

知事／申請したのは間違いない。

申請していたのに来ないのかという反応になっているが、当初から、申請したら全部やる約束になっていたわけでもない。

ただ、ワクチンをたくさん打てよと、会場を作って、市町村も打ちなさい、職域も打ちなさい、自衛隊とか国とかの広域接種もしなさいとなってきたので、申請してやっている。

奈良会場に来たという段階なので、次はまだかと反応するのは、あまりいい反応ではない。

順番に来ているというのが、今の報告です。

奈良会場に来たことを、まず報告したいのが一番です。

皆さんの勝手だが、二つ(申請)したのに一つしか来なかったのかということ、一つきたねというのは、受け取り方です。

私からは、一つはまず来ました。

これで1万4000回は打てますと、喜んで報告したい気持ちです。

それをお伝えしたということです。

記者／榎原の人とかは、多分気にしてると思うので・・・

知事／それはご勝手です。どうぞと繰り返して言っています。

わかります？言ってること。

記者／最初に榎原と奈良でやると・・・

知事／だからどうぞ、もうこれ以上は。

以上、終わります。

二つあって、一つきたというのと、一つしかこなかったというのは、皆さんの受け取り方です。

私は一つきてよかったという受け取り方。

水が半分入ってよかったという受け取り方。

世論という反応がある。

皆さんが、一つしかこないのかという受け取り方をするのは勝手ですが、私は賛成しません。

私は、一つきて嬉しいと報告したい。

その気持ちをはっきりと申し上げた次第です。

司会／よろしいでしょうか。

毎日放送／度々すいません。

大和郡山市の高齢者の接種率は79%。

知事はもう接種された？

知事／接種率79%。

記者／大和郡山市は80%ぐらい接種が進んでいるが、知事はワクチンの1回目の接種は終わりましたか。

もし終わられてたら感想は、どうでしたか。

知事／明日打ちます。

明日1回目。

記者／ということは、2回目はいつになる？

知事／月内で。

間ちょっと短いかな。

月内で打ちます。

もう打ってよろしいでしょうか。

記者／月内に2回終わるといことですね。

知事／2回目も予約できたと思っています。

覚えてないんだけど、明日の自分の行動だから覚えとかないと。

郡山市の開業医で、打ちます。

クリニックに行きます。

市の集団接種もあったが、開業医にした。

ちょっと遅れたが、開業医のクリニックで打ったら落ち着いて打てると思って。

平日も出来たかもしれないが、週末の方がありがたいと思って、明日打ちに行きます。

忘れないようにしなきゃ。

最初ですのでちょっと。

大丈夫、熱出たりしないだろう。

まだ元気でやってる。

いつも、訊いていただいて、ありがとうございます。

司会／お時間近づいています。

あと1人だけ。

読売新聞／ツチヤです。

よろしくお願いします。

第5波襲来の措置をした場合の、流入防止対策ですが、具体的にはどういったものを想定しているのでしょうか。

職員／流入防止対策に関しては、例えば周辺でやっておられる施設に対する同様の措置であるとか、その時点で飲食店等に対する何らかの措置があればそういったことも検討の中に入ってくると思います。どういったことをやるかは、その状況に応じて考えていきたいと考えています。

記者／それは例えば時短要請みたいなことも含まれるということ？

職員／全てに関して、どれがやるべきかやらないべきかは、その時点での状況によると思う。

時短要請も含めて、やらないと否定はしないが、状況をよく判断して、一応の対策をしていくと思います。

司会／よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

それではお時間ですので、質疑はこれで終了させていただきます。

ありがとうございました。